大谷瓦窯跡（東松山市）

大谷瓦窯跡

大谷瓦窯跡は、県道福田・吹上線を北側にのぞむ、丘陵の東南斜面に残されています。昭和30年5月に2基の窯跡の発掘調査が行われ、完全な形で掘り出された1基です。

瓦窯跡は、瓦を焼いて製作した窯のことで「登り窯」とよばれる形態をもっています。また、瓦の製造は、寺院建築とともに始まったものです。

この窯跡は、地山を掘り窪めて構築したもので、前長760センチメートル、約30度の傾斜をもっています。幅60センチメートルの焚口は、瓦を立てて補強してあります。燃焼部は一段深く掘り込まれて、一つの部屋を形成しています。また、瓦を利用して13の段が形成されているなど、全体に補強工作が慎重に行われています。

出土遺物は、軒丸瓦、平瓦、丸瓦、文字瓦などです。年代としては、白鳳時代と思われます。

（インターネットより借用）

http://www.musashigaku.jp/newpage46.htm

右手が大谷瓦窯跡

右手が大谷瓦窯跡

左手が大谷瓦窯跡

大谷瓦窯跡

Ooya Gayouseki

大谷瓦窯跡は、昭和三十年五月に発掘調査が行なわれ、検出された二基の瓦窯跡の内、保存の良い一基が昭和三十三年十月八日に国指定史跡になりました。

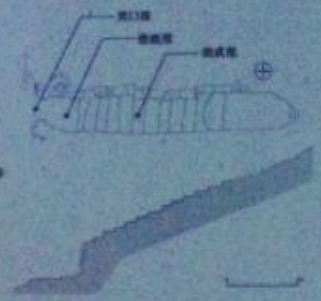
瓦窯跡は、瓦を専門に焼いた窯のことで、瓦の製造は飛鳥時代（七世紀頃）以降盛んになる寺院建築とともに始まったものです。

この瓦窯跡は、山の斜面を利用した「登窯」とよばれる半地下式のもので、全長は七・六〇メートルあります。

窯は、焚口部・燃焼部・焼成部・煙道部の各部から成っています。この窯跡の特徴としては、焼成部に瓦を利用して階段状に十三の段が造られていることがあげられます。

出土遺物は、軒丸瓦・平瓦・丸瓦等があり、こうした瓦から窯跡は、七世紀後半頃と思われます。

付近一帯は周辺に窯跡群が埋没しており昭和四十四年に県選定重要遺跡に選定されています。



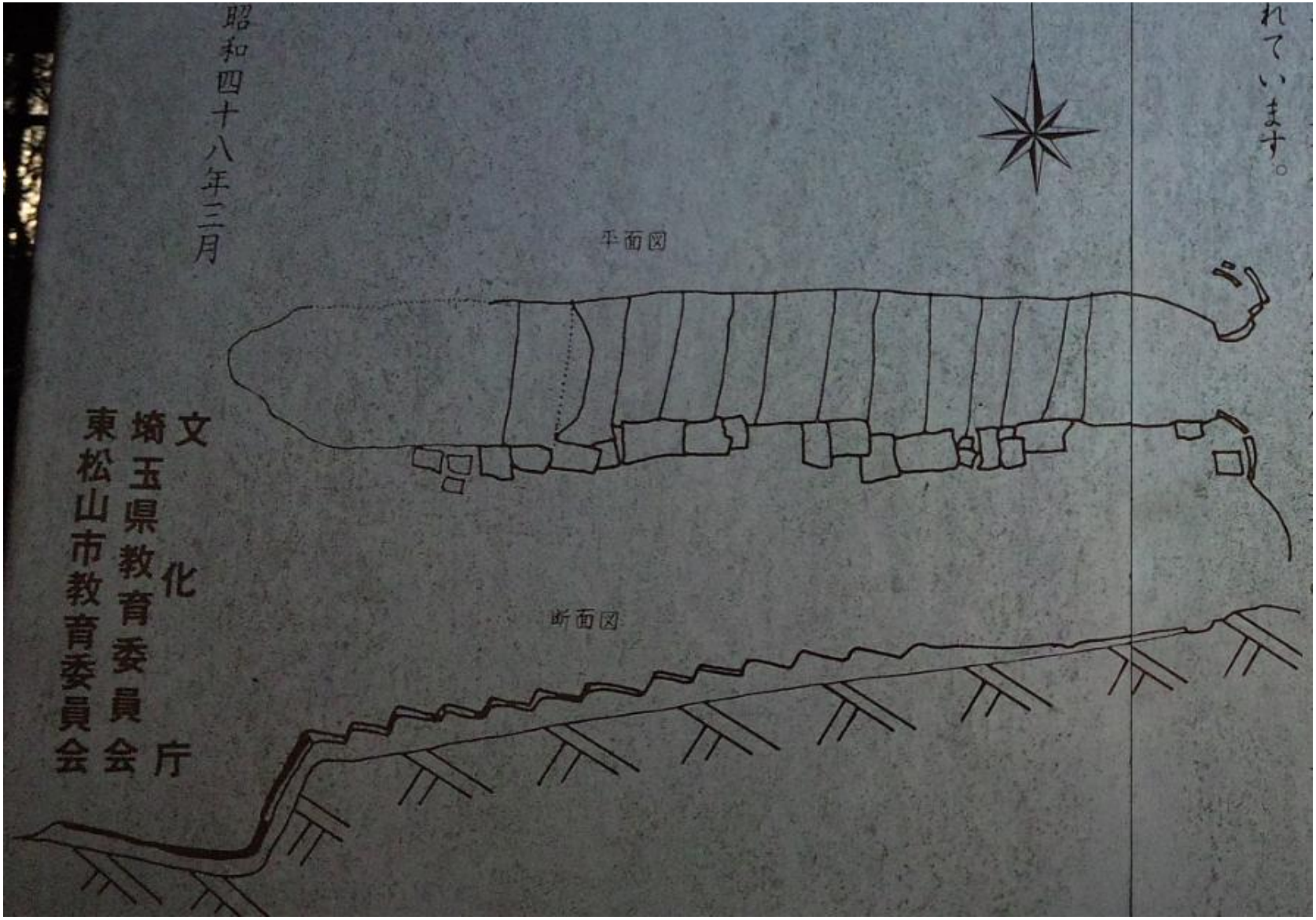
大谷瓦窯跡

昭和三十三年十月国指定

瓦が多量に生産されるようになるのは、寺院建築が盛んになる飛鳥時代からです。奈良時代から平安時代には、各国に建立された国分寺やその他の寺院が盛んに建立されたので、各地で瓦が生産されるようになります。大谷瓦窯跡もその頃つくられたものです。瓦を焼く窯は「登り窯」です。傾斜地を利用し斜めに高く穴をあけ、下の焚き口で火をもやし、環元熱を応用し高熱を得るよう工夫されています。この窯跡も三十度の傾斜角を有しています。　さらに、高熱に耐えられるよう、焚き口の火床は粘土を積み固め、側壁は完型の瓦を並立して粘土で固定し、床面は粘土と粘板岩の細片をまぜて固め段を作るなど、補強工作が慎重に行なわれています。

大谷瓦窯跡は昭和三十年五月に、二基調査されました。保存がほぼ完全であった一号窯跡が保存されています。出土遺物は平瓦が大部分で、竹瓦が数個と蓮華文のある瓦当一個が発見されています。

れています。



昭和四十八年三月

文化庁
埼玉県教育委員会
東松山市教育委員会

水穴配水場
大里胃山局
307
東松山霊園
パーラー
遊21
アルビオン
吉田警察犬
訓練学校
JA
春日文化
センター
東平新田老人憩
の家自治会館
あかつき園
25
大谷浄苑
東松山CC
大谷瓦窯跡
電成興業
日本製紙
金光社紙器
コスモ
東松山
リコー
東平幼稚園
トーツー
創研
桃の木
保育園
西明寺
391
松山第二小
シロックス
東京物流

地図
写真
地形
Earth
391
大谷
307
JA埼玉
中央大岡
吉田警察犬
訓練学校
大谷瓦窯跡
2010年3月29日更新
詳細はこちら
ルート
付近を検索
保存先...
その他
八雲神社
25